

平成28年度の学校評価

本年度の 重点目標	①将来の目標をもたせ、生徒の能力を最大限に伸ばす。 ②自律の精神を培い、望ましい社会性を養う。 ③多様な生徒へのきめ細かな対応を組織的に行う。 ④教育環境の円滑な整備と、それに伴う影響への適切な対応を行う。 ⑤PTA、同窓会及び地域との連携を深め、開かれた学校づくりを推進する。 ⑥組織及び個人の両面におけるコンプライアンスを徹底する。		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
総務	①広報活動の充実 ②防災意識の向上 ③学校と保護者の協力体制の充実 ④創立100周年に向けた事業の推進 ⑤文書の整理	・ホームページの内容充実 ・防災教育の研究と実践 ・PTAとの情報交換 ・PTA、同窓会との連携 ・古い文書整理	・HP担当者が変わり、ホームページ掲載までに時間がかかってしまった。担当者を複数にして人事異動等があっても対応できるようにする。 ・防災セミナー参加生徒によるシェイクアウト訓練の実施、愛知シェイクアウト訓練参加など防災意識の向上に努めた。日常の防災意識の向上を図ることが課題である。 ・PTA理事会毎に保護者の意見集約を行い、それに対して解答することで情報の共有や学校の考えを理解して頂く機会とした。 ・記念式典の実施に向け、90周年の記念式典の内容を把握した。来年度からは具体的な案の検討に入りたい。 ・昨年度の古文書整理に続き、電子データの整理を行った。今年度からは、年度末に古文書・電子データ共に整理できるようにした。
学習指導	①65分授業の充実 ②個々の生徒に応じた学習指導法の確立	・各教員が自身の教科指導力を高め、授業改善を図る。 ・多様化する生徒に対応した学習指導を行い、生徒が主体的に学習する姿勢を育てる。	・本校生徒の実態に合うように、また社会からの要請に応えるように授業の改善を心がけたが、「アクティブラーニング」などの手法により、本校の授業改善の最終目標である、生徒の主体性を促す取組みがさらに授業内に増やせるようにしていきたい。 ・増加傾向にある学業不振生徒、学校不適応生徒に対しては、次年度も職員間で情報を共有し、組織的かつ柔軟に対応していきたい。
生徒指導	①基本的な生活習慣の確立 ②マナーの向上 ③安全確保の推進	・欠席、遅刻、早退の理由を把握し、適切な指導を行う。 ・公共でのマナーの意識を高めさせる。 ・あいさつを励行 ・高校生らしい身だしなみを日常的に意識させるようにする。 ・生徒の安全を考え組織的に対応する。 ・生徒に交通安全に対する意識を高めさせる。	・週末、月末に欠席・遅刻・早退状況を把握している。引き続き状況把握と状況に応じた指導が必要である。 ・普段の遅刻指導とともに、遅刻者数の増加が予想される時期に遅刻防止週間を設定し、指導強化を図った。 ・自転車マナーを中心に、公共でのマナーについて機会あるごとに呼びかけた。マナーについて、外部の方からご意見をいただくこともあり、継続した指導が必要である。 ・あいさつの励行は防犯面からも継続させたい。 ・身だしなみ指導を通して、生徒の自覚を促した。また日常的に指導を行った。 ・防犯マニュアルを作成し、組織的な対応を図った。 ・交通安全について、各クラスや全校集会を通じて呼びかけた。 ・地域、PTAと協働し、交通量の多い交差点で街頭指導を行った。 ・生徒交通委員が安全マップを作成し、交通安全に対する意識の高揚を図った。

	④教育相談の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・予防的な教育相談活動に取り組む。 ・不適応生徒を早期に把握し、組織的な対応を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クレペリン検査や健康観察等を通し、予防的な教育相談活動に取り組み、精神健康度の向上を図った。 ・学年会、保健部およびスクールカウンセラーとの連携により、個々の生徒の状況を職員間で共有し、必要に応じた対応が図られた。 ・今後、支援の必要な生徒の増加が懸念され、より密な連携、生徒情報の共有が必要である。
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ①進路選択能力の育成 ②進路に応じた進路設計 ③進路目標の堅持と幅広い視野の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・面談、進路相談の充実 ・適切な資料提示 ・進路検討会・入試情報交換会の充実 ・入試制度改革への対応準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・実力テストを基にする進路検討会を実施し、進路アンケート・担任による面談指導を通して、継続的な進路指導ができた。 ・進路のしおりを毎年更新して発行し、進路LT等で活用し、進路意識を高めた。 ・難関大説明会・医学科説明会・学部学科説明会、東大見学会を実施し、OBとの接する機会を増やした。 ・入試制度改革に向けての情報収集に取り組んだ。
生徒会活動	<ul style="list-style-type: none"> ①部活動の充実 ②生徒の力で作り上げる生徒会行事 	<ul style="list-style-type: none"> ・顧問会議と部長会議の有効活用をする。 ・生徒会執行部を中心とした指導体制の確立。 ・生徒の力で各種行事が運営できるように意識を高めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総体尾張予選で男子が3年連続優勝し、各部の努力の結果を示すことが出来た。 ・また、陸上部、弓道部が東海大会に出場することができた。 ・執行部への立候補も多く、期日通りに成立した執行部は積極的に行事に取り組み、各委員会とも協働し、充実した学校祭、を行うことが出来た。 ・各種行事に生徒が主体的、積極的に取り組んだ。
学校図書館	<ul style="list-style-type: none"> ①図書館の利用機会、利用者数の増加 ② 図書館の環境整備 ③ 視聴覚室の機器の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業、LTでの図書館利用を呼びかけ、広報活動、図書委員会の活動を充実させる。 ・利用、管理しやすいよう館内の環境を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書委員会の活動は、ビブリオバトル、古本バザー、読書週間行事等、いずれも多く生徒が参加し、成功を収めた。「図書館報」「図書館たより」「新着図書案内」も定期的に発行できた。貸し出し冊数も11月の時点で昨年度全体の数を大幅に上回っている。 ・バーコードリーダーを用いての蔵書点検は2年目となった。貸し出し、返却手続きだけでなく、点検もスムーズに行うことができた。 ・故障して使用できなかったモニターを新しく購入していただき、利用しやすくなった。
学校保健	<ul style="list-style-type: none"> ①美化活動の充実 ②環境問題への取り組みの充実 ③保健・安全教育の充実 ④保健安全指 	<ul style="list-style-type: none"> ・通常清掃・特別清掃を充実させる。 ・ゴミの減量・分別・リサイクル、古紙回収を徹底させる。 ・生徒保健委員会活動の充実 ・心身の健康や安全 	<ul style="list-style-type: none"> ・通常清掃、特別清掃（校外美化活動、側溝清掃）ともに職員・生徒の協力で実施できた。今年度、スノコ清掃は、体育館工事のため実施できなかった。 ・古紙回収は、昨年度から一部変更したが、ほぼ順調に実施できている。 ・ゴミ分別は、昨年度に従来より少し具体化し、新入生全員にもプリント配布し徹底をはかった。 ・生徒保健委員により、毎日の気温・湿度測定、上水道の水質検査、保健だより発行、などを行っている。夏季は熱中症予防、冬季はインフルエンザ予防のためのポスター作成を行った。 ・ゴミ分別係が分別状況を把握し、その結果を踏まえて2学期終業式で保健委員長が生徒全体に訴えかけた。 ・懸案であったエビペン所持者についての「緊急時個別

	導の推進	指導の充実 ・健康観察の充実	対応マニュアル一覧表」を作成し、保健室と教頭2人が保管し、対応できるようにした。 ・部活動の部長・マネージャー、体育祭群団長を対象に熱中症を中心にした安全講習会を実施した。さらに、スポーツドリンク・塩飴を勧める必要がある。 ・担任の健康観察の重要性を改めて周知し、保健室からも積極的に情報提供に努めた。 ・日本スポーツ振興センターの災害給付を利用するだけの発生が例年多いが、体育科・部活動顧問の協力で昨年度までより減少している。
SSH	①学校設定科目「SSH理科課題研究」開設の成功 ②SSH事業の客観的事業評価の充実	・課題設定の過程に重点を置く。 ・教員間の情報交換を密にする。 ・レポート評価の客観指標を作る。 ・個人レベルの変容把握を試みる。	・課題設定の際に、生徒間で仮説や検証方法が十分であるか検証させることで改善が見られた。また、3年課題研究は教材をまとめ冊子にして配布することで、指導の徹底がはかれた。 ・研究レポートを1年、3年の統一のICEモデルを元にしたループブックで評価した。今後これを用いて年度比較し、生徒の変容を分析したい。 ・定期意識調査による分析を試みている。多くの点で生徒の意識の向上が見られた。特に、こちらが重点的に指導したところが生徒の評価も向上しており、指導の成果が見られた。
ファッション創造科	①専門的知識・技術の習得 ②創造力・実践力の育成 ③地域社会に貢献する人材の育成	・ファッションや保育に関する専門的知識・技術を習得させる。 ・豊かなライフスタイルを創造する能力や実践力を育成する。 ・地域社会が求める資質や能力の向上を図る。	・ファッションや保育の分野の専門性を高め、教材の精選、検定資格取得、保育現場での実践力向上に努めた。 ・各コースにおいての特色を活かし、物作りの楽しさ、創造・実践する喜び等の体験を通して生徒の自信につながりコンテスト結果等様々な成果を得ている。 ・今年度初めて一宮市主催の学生視察研修事業に3年生が参加させていただいたり、一宮特別支援学校の文化祭や一宮市のおいち祭りで3年がファッションショーを披露したりするなど地域への発信力を高めた。また、2年生のインターンシップでは、地元企業2社に新たに受け入れていただき地場産業の人材育成に貢献した。さらに、卒業研究発表会においても3年間の実践結果を披露し、生徒の資質や能力の向上を図った。
1年	①基礎学力の涵養と発展的な思考への意欲の育成 ②学習、特別活動における仲間と切磋琢磨する経験	・高い目標の設定 ・能動的な学習法の確立 ・人間関係の構築 ・学びの環境整備	・主体的に学習や諸活動に取り組むことができる生徒がいるものの、周囲の雰囲気にならされてしまい、受動的な学習しかできない生徒も少なくない。与えられた課題をこなすことに終始するだけでなく、将来のビジョンを持って毎日を頑張れる状況を作り出すことが必要である。 ・学校生活に適応しづらい生徒が少しずつ増えている。学校に対して、生徒、保護者、中学校、地域が何を期待するかということを経験から把握し、生徒の将来を見据えた人間的な指導の必要性をさらに感じている。
2年	①「自立・自律する心の育成、仲間との共生」	1.自己管理能力の向上 2.学習習慣の確立と学力の向上 3.高い進路目標とキャリア設計 4.教養・社会性の育成	・修学旅行や学校祭、予餞会等の学校行事を通して、集団としての規律や学校、クラスの帰属意識が強められたと同時に、管理や責任、社会性についての発展は認められたと思われる。 ・進路目標の設定については、多くの生徒が将来的なビジョンを持って行うことができているが、それを裏付ける学力の向上という点ではまだまだという生徒も多い。 今後は集団に対する指導とともに、個々の生徒に対す

			るアドバイスについても力を入れていく必要がある。
3年	①「挑戦する心の育成、仲間との共生」	<p>1. 学力・思考力・表現力の向上</p> <p>2. 高い進路目標とキャリア設定</p> <p>3. 教養・社会性の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> 予習・復習の重要性を認識する生徒が増えており、自ら考えていく姿勢が育ちつつある。表現力についてはまだ他者を見据えた論理的な説得力のある文章を書く段階ではないので意識の向上を目指す。 自己実現のための高い進路目標を設定し、自分の特性を生かした職業や人生について考え、自分で決断させるよう面談やL Tを通して助言をしている。 学校祭やSSH課題研究、総合の授業を通じて、様々な他人の考えに触れ、粘り強く自己主張をすると同時に周囲の立場を理解する広い視野を持つ生徒が現れてきた。
総合評価		<p>年度当初に掲げた具体的方策についての取組は、前年度の評価結果を意識した改善が全体として進められている。しかし、まだまだ改善・改革の途上で有り、来年度に向けて新たな課題の掘り起こし、整理、検討を進めていく必要がある。</p>	